議会だより
おかがき

No.82　1月定例会　平成23年１月25日発行

岡垣中など耐震化 ● 3

町政を問う ● 9～11
一般質問

岡垣町議会議長
曽宮　良壽

初春のお慶びを申し上げます

「改革」「交代」等と言葉遊びであわただしく過ぎて行ったここ数年の喧騒に、外からの新たな刺激が加わって、いわゆる「落し処」を見つけるのが困難な昨今になってしまった感があります。

「ことば」の軽さが不信を生むこと。「ないものねだり」につながる約束をしても、現実に直面して「お金」のことを考えると、選択肢が限られていること。これら世間では当たり前のことが、やっと当たり前と気付いたところからしか明日の国民の幸せは計れないと思います。

それだけ乖離していたことを反省しなければなりません。

その意味で新しく芽生えるであろう兆しに期待するところです。

岡垣町議会では不断の改革で、議会運営に係わる経費をピーク時1億4千万円弱を23年度当初予算では平成2年当時の議会費決算1億円余りにまで縮減することになるでしょう。

昨年3月定例会で政務調査費を廃止し、さらに9月定例会で議員定数を16名から13名に改めたのも、その改革努力の歴史の一部で、議員各位が町と町民の将来を考えたところからのものと信じています。

新しい年を迎え、「常に改革中」「議会は常に町民と共にある」を肝に銘じ、町政に責任ある立場の議員としてまた議会として、安心・安全の町づくりを念頭に、たゆまない研鑽を積み、つとめを果たしてまいりたいと決意を新たにしています。

今年一年が、岡垣町と町民の皆様にとって、幸多い年であるようお祈りして、年頭のご挨拶とします。

定例会 12月 概要

岡垣中など耐震化

2億824万円の補正予算

耐震化工事が決定した岡垣中学校

12月定例会は12月6日から16日までの会期で開かれ、10議案、諮問2件、請願1件、陳情1件、発議4件などについて審議しました。

●本会議で提出された主な議案は、

①職員の定年に関する条例の改正

②基金再編の条例改正

③サンリーアイフィットネスジムの施設利用料の見直し

④岡垣町一般会計補正予算

※耐震化に関する予算が主で、岡垣中校舎の耐震補強工事及び仮設プレハブ校舎の設置、戸切小校舎・海老津小体育館実施設計委託料などです。

- ●教育委員会委員に花田悦子さん（再任・海老津区）
- ●人権擁護委員に麻生洋海さん（再任・吉木区）
- ●人権擁護委員に入江明子さん（新任・糠塚区）
- ●岡垣町職員の定年退職日は年２回から１回へ　（Ｐ４）
- ●サンリーアイフィットネスジムは１時間200円（一般）利用も可能に
- ●議員定数削減に伴い、常任委員会を３から２へ
- ●子ども手当廃止の陳情書不採択　賛成６反対７　（Ｐ５）
- ●西田陽子議員に対する問責決議可決　賛成10反対２　（Ｐ６～７）

職員の定年等に関する条例の一部を改正する条例

反対

西田　陽子　議員

4年前、町の行革プログラムの中で提案され、議決されたものが、他の自治体がやっていないということ、予期せぬ退職者の増加で知識や経験の継承ができないということで元に戻る。それは、町の政策が自ら間違いであったことを示す。若い管理職登用で、活性化を図るという提案理由はどこにいったのか。なにより知識等の継承は半年定年を延ばすことでは解決しない。日常的な継承・共有の場を設定すべきだ。民間は誕生月が定年だ。今年の退職者6人分は2500万円だ。それらを若い人の嘱託雇用などに向けられる。

町長は住民目線ではなく、職員目線だ。

賛成

平山　弘　議員

「岡垣町行財政構造改革」によって、平成18年度から定年退職の日を、9月30日と3月31日の年2回にして実施してきたが、元の3月31日の年1回にする条例改正である。

年2回の退職にして5年経過したが、想定以上の早期退職者が出て職員の確保が難しくなり、職員の知識・技能の継承が低下し人材育成と事務事業に支障をきたしている。

職員の士気にも影響し、住民サービスの向上につながっていないし、メンタルヘルス面の影響も出ている。

構造改革の見直しであり、職員の労働条件・職場環境の改善につながる改正であり賛成する。

木原　信次　議員

職員は9月30日か3月31日の早い期に退職している。一部において労働賃金として安価な方が良い。と早く退職させるが良いという意見もある。職員の仕事は、町民に奉仕するものである。

町民の問い合わせや要望に、いかに親切に適切に対応するかにある。可能なことは速やかに実行し、不可能なことは、その意味を良く説明しなければならない。

経験を重ねた職員が模範となり、後進の職員を指導する必要もある。

半年早い退職は、職員の補充や人事異動で、財政上も効果は期待できなかった。他の市町村と同様3月31日に一本化することは当然だと申し上げる。

おねえちゃんがついたおもちおいしいね

難しいけど楽しいよ

子ども手当の廃止を求める意見書の提出に関する陳情書

反対

平山　弘　議員

子育て支援は、現金を配るだけでなく、▽正規雇用を増やす▽保育所をつくる▽医療や教育費の負担を減らすなどの、総合的な対策が必要で、その一環として現金給付の拡充も必要である。

子育て世帯の多くは所得が低く、経済的困難が深刻である。

政府の調査でも経済的支援を求める声が7割に達し、子どもの7人に1人が貧困状態である。両親とも派遣労働者という例も珍しくない。

子ども手当の対象となる16歳未満の年少扶養控除が廃止されるが、手当受給世帯以外への負担増はない。

ゆえに、子ども手当の廃止には反対である。

竹内　和男　議員

子ども手当の混乱は地方負担や企業の負担が残る児童手当と、民主党が主張する財源が、確保できないことにある。

そのため、1人2万6千円が半額の1万3千円の支給にとどまっている。

3歳未満の支給については、元々が、1万円支給であったため、3千円だけの増額となり、来年からの所得税や住民税の扶養控除の廃止に伴い、支給額より負担額の方が増える所得階層が出る一方、陳情書どおり廃止すれば、更に混乱を招き、子育てを社会で支える理念を失う。

賛成

市津　広海　議員

子ども手当の政策目的が不明確である。少子化対策であるなら、第2子、第3子への支援を強化すべきだ。子育てへの経済的支援であれば、所得の低い家庭に、より手厚い支援をすべきである。現金給付でなく子どもの校納金無償化等、現物給付にすべきだ。保育施設の充実や幼児教育の充実などの政策をとるべきである。中学校授業で子ども手当について討議した中、ばらまきよりも、保育園の増設等、国にしか出来ないことをやるべきである。所得制限がないのはおかしい、財源がないならやめるべきとの発言が大多数であった。国がやるべき政策、そして財源確保を。

三角　善彦　議員

条件整備が曖昧（あいまい）なまま施行したことで、例えば外国籍の方の取り扱いなどが課題として挙がっている。

そもそも、子ども手当に必要とされる5兆円あまりの財源は、事業仕分けにより捻出できるのではなかったか。

また、3歳未満を対象とした改正は、短絡的な結論の導き方と言わざるをえない。

子ども手当は、子や孫たちの利益（借金をいたずらに増やさない）を考え、廃止すべきだ。

子育てに対する経済的支援は、例えば、子どもの給食費や医療費の無料化、保育サービスの充実や幼児教育の充実に充てるべきだ。

問責決議を賛成多数で可決

西田議員は定例会最終日の平成22年度　岡垣町一般会計補正予算（第２号）の賛成討論の中で「議案とは直接は関係ない」として発言を行いました。
その発言及び内容が議会運営のルール上問題があると判断され、議会運営委員会においてその取り扱いについて約５時間断続的に協議及び調整を重ねました。しかし調整不調のため、西田議員に対する問責決議（注１）が賛成多数で可決されました。

12月14日

連合審査会　総務常任委員会主体の連合審査会（注２）において、西田議員が議題外の発言をし続けたため、三角総務常任委員長が発言を止めました。この判断を総務常任委員会も支持しました。

12月16日

本　会　議　西田議員が討論時に会議規則に違反した発言を行いました。内容は14日の連合審査会での総務常任委員会の判断を非難するものでした。
議長が発言を指摘のうえ、本会議を休憩し、議会運営委員会（注３）へ西田議員の発言の取り扱いを諮（はか）りました。

議会運営委員会
議会運営委員会は、西田議員へ次のとおり指導するよう決定し、委員長及び副委員長が調整を行いました。
①議題外の発言の取り消しを申し出ること
②会議を中断させたことを謝罪すること
③今後会議規則に反する発言はしないこと
④総務常任委員会へ謝罪すること

本　会　議　西田議員が①及び②を行いました。

動議提出　三角議員他賛成者３名は③と④がなされなかったことから問責決議の動議（注４）を提出しました。

質　疑　提出者への質疑が行われました。

弁　明　西田議員が弁明（注５）を行いました。

討　論　反対討論、賛成討論を行いました。

採　決　賛成多数で可決されました。

三角議員の提出理由

発言を取り消ししたから良いというものではありません。今後会議規則に反する発言をしないという明言がなく、法を遵守して運営している総務常任委員会を非難したことへの謝罪がなかったため問責動議を提出しました。

西田議員の弁明

すでに発言を取り消しており問責される理由がわかりません。この発言も議長が途中で制止しなかったので続けたまでです。この問責決議は納得がいきません。

反対議員（２名）の意見

本人から発言取り消しの申し出があっています。このことだけで良いと思います。これからも「このようなことがある」という予見で議会は対処すべきではありません。

賛成議員（10名）の意見

議会は言論の府と呼ばれています。自由で活発な論議は当然行われるべきです。ただし、それは一定のルールの下でこそ保障されるべきものです。
今後議員としての発言の重さを自覚し、会議規則を再確認し、猛省すべきです。

西田陽子議員に対する問責決議

我々岡垣町議会議員はお互いに切磋琢磨し、岡垣町をより良い町にするため日々努力を重ねています。今回、その同僚議員に対し、問責決議の案を提出することは、大変辛く心苦しいものがありますが、本日の西田陽子議員の発言は岡垣町議会の秩序を大きく乱すものです。

議案第59号　平成22年度　岡垣町一般会計補正予算（第２号）の賛成討論中であるにもかかわらず、自ら「議案と直接は関係がない」と宣言して発言を続けました。

これは明らかに岡垣町議会会議規則第50条（注６）に反しており、議会の規律を完全に無視したものです。

今回はこの違反部分を削除するという申し出がありましたが、「これから二度と規則に反した発言をしない」という約束、すなわち規律を遵守するという言葉はありませんでした。

議会は「言論の府」と言われるように、言論を尊重しその自由を保障しています。しかし、その前提として定められた規律を守ることが絶対です。

まして、この発言の中には会議規則を遵守して運営されている総務常任委員会を侮辱するものが含まれており、これは決して許されるものではありません。

よって、岡垣町議会は西田陽子議員が各条例、規則等定められた規律を熟知され、議員としての責任と自覚を認識すべく、猛省を促すため本案を提出いたします。

用語解説

（注１）　問責決議

国または地方自治体の議会において、政治任用職にある者（閣僚など）、または議会の役員（議長・委員長など）の責任を問うことを内容として行われる決議をいう。議会の意思表明であり、法的拘束力は有しない。

（注２）　連合審査会

案件の付託を受けた委員会が、他の関連する委員会と合同で審査するための会議。案件に対する意思決定の権限は付託されている委員会にある。

（注３）　議会運営委員会

円滑な議会運営を期すため議会運営の万般について協議し、意見調整を図るために設置された委員会。委員会での決定に基づき議員の活動基準や規制が可能となるなど強い調整機能を有する。

（注４）　動　議

会議の進行または手続きに関し、議員から議会に対してなされる提議で、議会の議決を経るべきもののこと。

（注５）　弁　明

問責決議の対象者に釈明と反論の機会を与え、自己の立場について述べること。

（注６）　岡垣町議会会議規則第50条

第50条第１項に「発言は、すべて簡明にするものとし、議題外にわたり又はその範囲を超えてはならない。」と規定されている。

議案ほか決議について

議員の賛成○・反対●・除斥 除・退席 退・欠席 欠

内容	採決日	議席番号	1	2	3	4	5	6	7	9	10	11	12	13	14	15
		結果	市津 広海	木原 信次	久保田秀昭	三角 善彦	下川路 勲	石井 要祐	太田 強	西田 陽子	竹内 和男	山田 隆一	平山 弘	藤﨑 光	大堂 圏治	横山 貴子
岡垣町教育委員会委員の任命について	12月 6日	同意	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
人権擁護委員の推薦につき意見を求めることについて	12月 6日	適任	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
人権擁護委員の推薦につき意見を求めることについて	12月 6日	適任	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
職員の定年等に関する条例の一部を改正する条例	12月16日	賛成多数可決	○	○	欠	○	○	○	○	●	○	○	○	○	●	○
岡垣町ふるさとづくり基金の設置、管理及び処分に関する条例を廃止する条例	12月16日	可決	○	○	欠	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
岡垣町財政調整基金の設置、管理及び処分に関する条例の一部を改正する条例	12月16日	可決	○	○	欠	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
岡垣町福祉基金条例の一部を改正する条例	12月16日	可決	○	○	欠	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
ふるさと・水と土保全対策基金の設置、管理及び処分に関する条例の一部を改正する条例	12月16日	可決	○	○	欠	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
岡垣町まちづくり整備基金条例の制定について	12月16日	可決	○	○	欠	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
岡垣サンリーアイ設置条例の一部を改正する条例	12月16日	可決	○	○	欠	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
平成22年度　岡垣町一般会計補正予算（第２号）	12月16日	可決	○	○	欠	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
平成22年度　岡垣町国民健康保険事業特別会計補正予算（第２号）	12月16日	可決	○	○	欠	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
生活保護の「老齢加算」復活を要求する国への意見書を求める請願書	12月16日	賛成少数不採択	●	●	欠	●	●	●	●	○	●	●	○	●	●	●
子ども手当の廃止を求める意見書の提出に関する陳情書	12月16日	賛成少数不採択	○	○	欠	○	●	○	○	●	●	○	●	●	●	●
岡垣町議会委員会条例の一部を改正する条例	12月16日	可決	○	○	欠	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
北朝鮮の無法な砲撃に対して厳しく非難する決議	12月16日	可決	○	○	欠	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
尖閣諸島の領有権に関する意見書	12月16日	可決	○	○	欠	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
西田陽子議員に対する問責決議	12月16日	賛成多数可決	○	○	欠	○	○	○	○	除	○	○	●	○	●	○

※議席番号８は欠番です

下川路　三里松原の維持管理等について

町長　今まで以上にボランティアを支援したい

下川路　勲 議員

下川路　三里松原は全長約12キロ、総面積約430ヘクタールのクロマツが主体の松原ですが、この海岸線に松を植林した理由は何ですか。

町長　先人達が農作物や家屋への塩害を防ぎ、防風、防砂防潮等、暮しを守るためです。

下川路　所有管理者を聞きます。

町長　国有で林野庁九州森林管理局の管轄です。

下川路　ヘリコプターによる航空防除を実施していますが、その効果は。

町長　航空防除は、松くい虫の被害を防止するために効果があります。しかし、規制が厳しくなり、民家近くは散布ができないところもあります。

下川路　散布が届かないところはどうしていますか。

町長　23年度は人力に加えて小型機械を使う方法等で、年2回実施するよう要請しています。

下川路　平成6年に任意団体である、「三里松原防風保安林保全対策協議会」が設立されていますがその目的は何ですか。

町長　保安林の機能を維持、向上させるとともに、「三里松原再生計画」を策定し、住民が三里松原をより身近に感じるようにすることです。

ふえつづける松葉かきの参加者

下川路　グリーンパトロール制度の目的と活動は。

町長　不法投棄の防止や防火等を目的にしています。主に松原近辺の地域の方々にお願いして巡回しています。

下川路　もっと全町民にPRすべきではないでしょうか。

町長　組織改編でボランティア活動を支援する体制を整えたので更に充実させ広げるよう努めます。

木原　新しいまちづくりについてどう臨むのか

町長　町民の力を結集し、将来評価される町をつくりたい

木原　信次 議員

木原　第4次総合計画によるまちづくりは平成23年3月で終わる。重点課題に掲げた施策のうちから、自然環境の保全と活用についてその評価を問います。

町長　環境ビジョンや、新エネルギービジョンを策定しました。施策のシンボルであり、地下水水源でもある三里松原の保全に力を尽くしています。

木原　中心市街地の活性化は、医療、教育、銀行等多くの資源があります。生活しやすい場としてもっと活かすべきです。また、JR海老津駅南側開発は、海老津、白谷線の道路の開通と駅南の広場にバスを入れることにしています。重点課題は開発促進とあり、開発構想も発表されました。土地の有効利用が大事です。

町長　駅南側開発構想だけでは、民間開発は難しく、実現するために、まず海老津駅を南側から利用できる条件を整備して、民間の開発に結び付けたいと思っています。

木原　第4次のまちづくりは中途になっているものが多い。予算の裏付けが必要です。これからは地域主権の方向です。「国に依存するな」、「町で経営しろ」、と自立をうながしています。自主財源の確保に努め、自治区の役員をはじめ、地域コミュニティの働き等、良い町を作るために、行政とともに力を尽くしていただける多くの方々が必要です。

町長　今日の岡垣町が住みやすいとの評価を受けているのは、各時代の住民の支えがあり代々引き継がれてきたまちづくりによるものです。今後も良いものを引き継いでいきたいと思っています。

新しいまちづくりに向けて

大堂　高齢者や障害者の安心・安全確保を優先に

町長　実態に適した施策の実行に努力したい

大堂　圏治 議員

大堂　福祉施策の基本が支援へと変わった今日、地域力である共助力を皆で高める努力が必要ではないですか。

町長　私も同感であり、地域で高齢者や障害者を支えていくことが大事だと思います。

大堂　民生委員の役割や責任が高齢化の急激な進行で、心身の負担が大きくなってきています。支援を強化していく必要があるのではないですか。

町長　私もそのように思っており、行政としてどのような支援ができるか検討していきたいと思っています。

大堂　介護保険の事業である包括支援センターは遠賀４町で一ヶ所のため、本当に必要な人に行き届かないのではないですか。

町長　町単位で設置するように働きかけたいと思います。

大堂　小地域福祉ネットワークは地域力を高めていく最良のシステムであり、全区への拡大と充実を図る支援を強化すべきではないですか。

町長　私もそのように思っているので、関係箇所とも協議したいと思っています。

自立に向けての活動

大堂　中心市街地活性協議会の計画の一つである、高齢者マンションの建設は、独居や老々家族が安心して暮らせる施設になるのではないですか。

町長　中心市街地をどのようにしていくのか、考え方の一つだと思っています。

大堂　障害者の安心と自立のためには、就労支援の強化が何よりも必要です。

町長　今年度の職員採用試験では障害者を対象とした枠を設け、車いす利用者を採用することにしています。今後も関係機関等と連携を図りながら、雇用促進に向けた取り組みを進めていきます。

竹内　学校施設の耐震化を！

町長　海老津小・体育館、戸切小・校舎も前倒しで、整備する

竹内　和男 議員

竹内　耐震工事を岡垣中学校が平成23年度、吉木小学校が平成24年度に計画しています。残りの小中学校についても、出来うる限り、速やかに耐震工事に着手すべきだが見解を尋ねます。

町長　岡垣中学校は平成23年度、吉木小学校は平成24年度に耐震工事を行います。耐震補強の評価がおりた戸切小学校校舎と、海老津小学校体育館については、国の補正予算の緊急総合経済対策を活用し、平成23年度に前倒しして耐震工事を行います。

竹内　ヒブ・肺炎球菌ワクチンの助成を！

町長　速やかな実施へ向け準備を進める

竹内　ヒブ・肺炎球菌などの感染症では、早期の診断が困難で、元気だった乳幼児が、急に発熱や嘔吐（おうと）を繰り返し、意識障害や痙攣（けいれん）などの症状を起こし、死に至るケースも少なくありません。ヒブ・肺炎球菌ワクチンの助成をすべきだと考えますが見解を尋ねます。

町長　国の補正予算で、ヒブ・肺炎球菌のワクチンが認められたことを受け、岡垣町として、速やかな実施に向けて準備を進めます。

「こわくないよ」

西田　今、駅南整備より岡垣中・吉木小改築が先

町長　発展のための投資、学校は計画的にやります

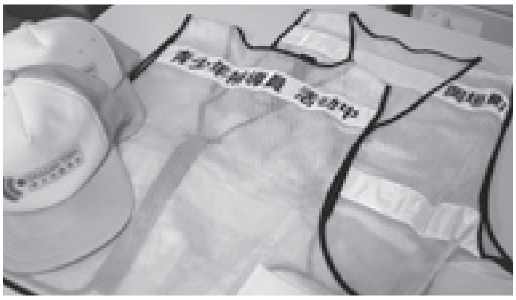
西田　陽子 議員

西田　この社会不況の中、21億5千万円の駅南事業で発展が見込めるというが、懸念が何点かあります。工事場所の金毘羅山宝地区は防災マップで危険区域箇所になっています。

町長　危険箇所に指定されているのは民家側で、今回の工事は鉄道側です。一部法面をカットしますが工事は十分安全性は確保して行います。

西田　今回の工事は、発展のきっかけで、将来的な開発による防災面も心配。また、5億9千万円の地下通路46メートルは死角になり、防犯面の心配はないですか。県下では春日駅・戸畑駅などに地下通路がありますが、岡垣に比べて、幅も広く、長さも短く、大都市で利用が多い。町は4メートル幅しかありません。利用人数の調査はされたのですか。

町長　この工事はきっかけと言うより条件整備で、戸切踏切や駅前広場の渋滞解消、緊急時の対策となります。また、調査はしており、1300人と推計しています。2025年に交番の移設も調整しており、青少年補導員の巡回地域も検討します。


青少年補導員が着用する帽子とベスト

西田　公共事業の優先順位について、公約には教育環境の整備とありますが、岡垣中・吉木小は郡内でも一番古く、老朽化が激しい。特に吉木小のトイレは山田小のトイレと比較すると教育環境の格差は問題です。

町長　吉木小のトイレは私も知っています。耐震補強工事と合せて改修します。

平山　少人数学級の方向にどう対応するか

教育長　決定されれば速やかに国の基準に沿った対応を図ります

平山　弘 議員

平山　子どもは社会の宝。豊かな教育条件の整備は未来を築きます。

国の学級編成の方向をうけてどう対応をしていますか。

教育長　国は来年1月の通常国会に、新学級編制と教職員定数に関しての改正法案を提出する予定です。

現行の1学級の上限人数を40人から35人にするもので、平成23年度は小学校1・2年生が対象。次年度以降1学年ごとに対象を拡大し、中学校は平成26年度から3カ年かけて行うことになります。

決定されれば、速やかに対応します。

平山　教室の不足は出ないのですか。

教育長　山田小と東中は不足する見込みがありますが、教室の確保に努め学校運営に支障がないようにしていきます。

○鳥獣被害対策について

平山　鳥獣被害の防止は農林業の振興に不可欠です。

予算を増やすべきではないですか。町における現状と対策はどうなっていますか。

町長　本町の昨年の有害鳥獣被害は、概ね2千万円程度です。

特に多いのがイノシシによる農作物や筍などの被害で、電気柵、箱わな、狩猟などの方法で駆除しており、その数は本年は118頭で、すでに昨年を上回っています。

より効果が上がる駆除対策が必要と考え、連携のとれた駆除班の設置、駆除する人材育成と駆除技術の向上、駆除活動や防衛柵に対する支援のあり方などを、平成23年度から段階的に実施していく考えです。

捕獲されたイノシシ

窓口業務の民間委託

総務常任委員会

委員長　三角　善彦
副委員長　藤﨑　光
委員　木原　信次
委員　平山　弘
委員　横山　貴子

日時：平成22年10月13日～15日

視察先

神奈川県湯河原町
東京都調布市

視察の目的

役場の組織、配置が変更されるなか、窓口業務の民間委託は財政面・組織面から有効かどうか、先進自治体の東京都調布市で学びました。

窓口業務の状況をきく

取り組みのきっかけ

調布市は、年間1万人が出入りすることから、窓口の混雑解消のため、さらに行革大綱による職員定数の抑制などの観点から取り組んでいます。

民間委託の利点

①職員総数を減ずる中での受付体制の充実が図られる点。
②繁忙期には人員を増員して効果的に対応しており、繁忙期・閑散期の度合いに応じて効率的な対応ができる点。

民間委託後の職員の反応

①受付で確認作業を確実に行うことで、窓口トラブルが減少したと捉えている。
②受付→入力→審査の流れがスムーズになり、処理能力が向上したと捉えている。

所感

都心部と違い、地方で行政サービスを担う請負業者は多くはないでしょう。
窓口で処理する業務で委託化できる部分は何か、効率性やサービス面から有効かどうかを見極める作業は、財政面、組織面の強化につながっていくと考えます。

待たれる中心市街地の再開発

経済建設常任委員会

委員長　石井　要祐
副委員長　山田　隆一
委員　久保田秀昭
委員　下川路　勲
委員　太田　強

日時：平成22年10月19日～10月21日

視察先

1日目　愛知県知多郡美浜町
2日目　愛知県幡豆町
3日目　愛知県岩倉市

美浜町の視察の目的は「グリーンツーリズム事業」です。H8年に「ジョイフルファーム鵜の池」を整備し地元農産物の直売、地域食材を使った料理の提供、イチゴ狩りなどの農業体験、オーナー貸し農園を展開。H13年度に国の補助事業であるグリーンツーリズム推進育成事業に取り組み、同年4月に美浜町都市農村交流協議会を組織し、結果として年間の売り上げは、3億6千万円伸びた。今後の課題は宿泊型になっていく事だ。2日目は幡豆町。目的は地域振興、農林水産業の振興。取り組みは、総務省「頑張る地方応援プログラム」を活用しH19年に地域ブランド化プロジェクトを開始。幡豆の自然環境を生かした地域ブランドデザインを策定しH20年3月「地域ブランド活性化計画報告書」、H21年3月に「アクションプラン報告書」が完成しているがH23年4月に西尾市に吸収合併されるので今後の動向を見守るとの事でした。3日目は岩倉市。目的は地域振興(駅市街地再開発事業)。事業主体は、岩倉東地区北街区市街地再開発組合。総事業費約70億円。この地区は名鉄犬山線岩倉駅の東側に位置し商業の中心として位置づけられていたが、基盤整備の遅れから衰退していた。S51年に地元連合会「発展会」から都市再開発の嘆願書が出されて計画された。以来約25年かけてH20年10月岩倉駅東駅前広場、都市計画道路北側線完成。H21年10月再開発ビル「サクランド岩倉」完成事業完了となった。ようやく完成したこの事業、地権者のどうしても遣り上げなければならないという信念と、これに関わった行政職員の並々ならぬ努力の賜物であると感じた。

基盤整備の状況をきく

教育と福祉の充実を揚げて

文教厚生常任委員会

委　員　長　竹内　和男
副委員長　西田　陽子
委　　　員　市津　広海
委　　　員　大堂　圏治

はじめに

今回の視察先は、林芙美子の「放浪記」にも登場する「広島県尾道市」である。現在は、NHK朝のドラマ「てっぱん」の舞台でもある。

広島県唯一のコミュニティスクールである「土堂小学校」を11月4日に、同市の教育委員会を訪問。

11月5日に、同市社会福祉協議会を訪問した。

教育の復興

開校から110年の歴史を誇る土堂小も少子化の波にのまれ、最盛期1300人いた児童が65人まで激減した。

本年度322人まで回復。理由は、学校と育友会（PTA）の決断。地元児童が92名と少数派で、交通の便が良いことで、電車などで他校区の児童が通っている。

同校では、授業の充実で、漢字検定では、263名の受験で99・6％の合格率を誇る。1年生から、パソコンやデジカメが操作できるようにするなど、ユニークな教育に取り組んでいる。

教育委員会の取り組み

平成17年から尾道さくらプランを推進。同プランの課題解決のため、「尾道さくらプラン2」を策定し、学校文化の礎を再構築している。

社会福祉協議会の事業

小地域福祉ネットワーク事業を行い、希薄化した地域福祉力を高めるため、「自助」「互助」「公助」「共助」で、協力する仕組みづくりを実行している。

おわりに

学校であれ一般社会であれすべてのキーワードは「信頼の醸成」であり、その実行に全てがかかっている。

地域福祉の活動をきく

議会改革の新たな課題は

議会運営委員会

委　員　長　太田　強
副委員長　平山　弘
委　　　員　三角　善彦
委　　　員　竹内　和男
委　　　員　石井　要祐
委　　　員　大堂　圏治

「議会改革の新たな課題は何か」

町議会では、「議会改革と活性化」について、新たな課題である「長期欠席議員の報酬減額」、「議会における町長の反問権付与」「議員の費用弁償の削減」などに先進地であると言われている兵庫県西脇市議会、徳島県小松島市議会、香川県善通寺市議会に11月10日から12日までの3日間視察研修に参りました。

岡垣町議会では既に行っている「議会の住民懇談会」や今年度廃止した「政務調査費」等についても関連ある問題として逆に視察先の市議会から質問をされました。どの自治体の議会も厳しい財政の状況の中、住民から「議会はなにをしているのだ」との厳しい声が出ています。

しかし議員の本来の仕事は議会の改革のみではありません。議員本来の活動をきちんとし、住民の目線、あるいは、住民に見える議員の活動がなされていないからこそ議会に対する厳しい意見が出されていると考えられます。

今回の課題である「長期欠席議員の報酬減額」も住民の目からすれば当たり前ではないかと言われます。今回の調査でも「議員活動が出来ない期間」の取り扱いで議会での議決までいろいろ論議されたようです。また「議会における町長の反問権」については「出来る」となっているが実際は反問がなされた実例はまだないとのことでした。今後は、これらの課題をまとめての「議会基本条例」の制定が最終目的であるとの意見が多数出ました。

西脇市議会の皆さんと

どうぞ傍聴席へ

次の定例会は

3月1日(火)

開会の予定

1月10日 成人式

「世に生を得るは事を為すにあり」坂本龍馬の言葉とされています。

人生の目的は、出世したり、財産や地位・名声を手に入れることとは限りません。

「事を為す」とは、夢や目標を実現すること、人生で何かを成し遂げること、人生に意味をもたせることだと思います。

新しい歴史の主人公たちである新成人に議会として期待をこめた餞(はなむけ)の言葉を送りました。

読みたくなる「議会だより」を目指して

議会広報特別委員会

委員長　横山　貴子
副委員長　三角　善彦
委員　市津　広海
委員　下川路　勲
委員　竹内　和男
委員　山田　隆一

「議会だより」は、議会審議の状況や議会活動を、住民の方々に知らせる広報紙です。私たち委員は、住民の皆様に親しみを持って、読んで頂けるようにとの想いで、編集作業を行っています。

今回の視察研修は、編集力の向上と、開かれた議会づくりのひとつである、議会ライブ中継について、10月6日から1泊2日で高知県四万十町と越知町を視察を致しました。

○四万十町議会だよりの特徴

・一般質問は1人1ページ
・写真を多く入れている
・表紙の写真、構成に努力（読者の眼を引き付ける）
・全ページフルカラー

○四万十町議会ライブ中継

・ケーブルテレビを活用

合併前に一町が導入していた。合併後議論はあったが全町拡大。現在95％の普及

・効果として、議会及び行政に対する関心が高まった。議員の質問の質が高まった。議会が身近になった

○越知町議会だよりの特徴

・町村議会広報全国コンクールで、毎年高い評価を受けている
・一般質問1人1ページ
・表紙の写真がとても高度
・委員全員で取材に行く
・方言を採用し、親しみやすいよう経過報告等を掲載

各視察先とも、強い熱意と毅然とした態度で、編集を行っていました。

今回学んだことを参考にして、紙面の更なる充実に向け取り組んでまいります。

ライブ中継の効果をきく

ボランティアによるコスモス祭にて

編集後記

三角　善彦

地域主権改革が地方から始まった。

霞ヶ関のお役人さんたちは、地方の行政能力を疑問視する考えから、出先機関が扱う事務を地方に渡そうとしない。

関西広域連合が誕生した。医療や防災などの分野を府県をまたいで共同で取り組む。

九州も同様な連合体を設置する動きがあり、この地方からの改革が進めばお役人さんは言い訳ができなくなる。

改革実現のためには、政治を担当する人たちが保身に回らないこと。

総論賛成、各論反対ではいつまで経っても進まない。

発行責任者
議長　曽宮　良壽

議会広報特別委員会
委員長　横山　貴子
副委員長　三角　善彦
委員　市津　広海
委員　下川路　勲
委員　竹内　和男
委員　山田　隆一

表紙への想い　地域の力を合わせた山田小のどんど焼き「今年も楽しい１年でありますように」

発行／岡垣町議会　議長　曽宮　良壽　編集／議会広報特別委員会　〒811-4233 福岡県遠賀郡岡垣町野間１丁目１番１号　TEL (093) 282-1211　FAX (093) 282-7732